

一般質問通告書

受領日時 令和7年11月25日 午前9時44分 8番 氏名 松浦 真

質問項目	質問の要旨
1 五城目町のこれからに向けて	<p>(1) 一般質問の答弁を見ると、各課だけの答弁が多くなり、自分の課の課題以外は対応しないという答弁が再び多くなっているように感じる。</p> <p>副町長の答弁含めて、1年前ごろには少し各課の壁を越えた前向きな答弁が数回出たように思うが、最近は影をひそめているように感じる。</p> <p>改めて各課の垣根を越えて、答弁や翌年度以降の施策を考えてもらいたい。この点については、公民館のコミュニティセンター化や健康福祉課の範囲の広さなどで決算特別委員会でも長年指摘してきている。当町として機構改革含めて、改善する方向性で考えられているのか。改善の成果があればぜひ数字や結果を表してほしい。現状は。</p> <p>(2) 秋田県全体で人口減少が加速する中、当町でも子育て世代の転出や学生の町外流出が続いている。特に本年は、五城目高校の志願者減により、進学時点で町外へ出ざるを得ない中学生が増えた。一方で、教育留学や多拠点居住者からは「五城目に住みたいのに家がない」という声が非常に多くなっている。出生・死亡・転入・転出の詳細データを提示したうえで、町としてどの層に対してどの施策が有効だったのか、逆に効果がなかった施策は何か、具体的に分析しているのか。また五城目町で出生後、五城目小入学段階まで実際に町内に住んでいる人数の割合はここ最近では何割程度になるのか。</p> <p>(3) 空き家・空き地バンクのマッチングはどうか。町外者からの問い合わせに対し、空き家所有者側の心理的ハードル、また町営住宅の短期利用不可など制度的ハードルがあると聞く。教育留学・高校魅力化・起業者支援を掲げている以上、「住む場所が確保できない」状態は致命的である。町営住宅の短期貸与など、町としてどこまで柔軟な運用改善を検討したのか。公民館のコミュニティセンター化含めて、条例改正を視野に前に進められないか。教育留学時のコーディネーター人員の確保や地域おこし協力隊のチーム採用含めて、本年度中に何を実行する予定なのか。</p>

<p>2 水害対策と河川・樋門管理の“実働レベル”の改善状況は</p>	<p>(1) 樋門の開閉は、依然として「誰が・いつ・何を基準に」判断しているのかが町民に伝わっていない。昨年の一般質問では「農業水利者を特定し協議していく」との答弁があったが、何名・何団体を特定したのかその方々への説明やマニュアル共有はどこまで進んだのか。豪雨直前の判断プロセスは具体的にどう変わったのか。上記について時系列を明確に示してほしい。加えて、大川の故障して開閉できなかった水門についても修理はどのようになったのか。水門操作を担う人員の確保と訓練の頻度、来年度以降の体制をどう整備するのか。</p> <p>(2) 県管理の大川堤防工事が遅れていることに、町民から不安の声が強い。県・JR・国に対して町としてどこまで働きかけたのか、これまでの交渉経過と入札不調にいたるまでの経緯を具体的に示したうえで、改めて工事着手時期を明確にしてほしい。</p>
<p>3 五城目高校の魅力化について、町の“覚悟”を明確にすべきでは</p>	<p>(1) 県の高校再編議論が本格化している中、現行の「PC補助・給食費補助・教育振興会補助金増額」だけでは、生徒数のV字回復にはつながらないのではないか。町長自身は“五城目高校をいつまでに、どの規模で、どのようなカリキュラムにするのか”という具体的な方向性を持っているのか。森林経営、地域防災、ICT・デジタル、観光・ローカルベンチャーなど、コース化の提案を県に正式に行ったのか。単に高校の要望を待つのではなく、町自身が主体的に未来像を提示すべきではないか。</p> <p>(2) 教育留学・教育移住受入・高校魅力化を進めるなら、コーディネーターの確保が必須である。高校魅力化や生活観光視点から、石見銀山のあそぶ広報のような先進的な取り組みにより、町内消費を増やすことも可能である。来年度予算に向けてどこまで踏み込むのか。</p>
<p>4 こども基本計画を「絵に描いた餅」にしないために</p>	<p>(1) こども基本計画書内には「継続」「検討」という表現が多く、町民からは「結局何が変わるのか分からない」という声がある。放課後の居場所、遊具新設、校内の空間利用拡大など、町内の子どもたちのニーズは明確である。今年度、計画から“実行”に移った事業は具体的にどれか。逆に実行できなかった理由は何か。来年度予算で“何を必ずやるのか”を明確に示すべきでは。</p> <p>(2) こども議会で出された具体的提案（シャッターアート、ドローンによる熊対策、地域イベントの運営参加など）をど</p>

	<p>こまで検証し、予算化を検討したのか。子どもたちの率直な意見に対し、形式的答弁ではなく、実現可能性をしっかりと議論したのか。</p>
<p>5 役場職員のハラスメント対策はどのように進んでいるか</p>	<p>(1) 役場職員の組織風土は良好であるか。パワーハラスメント、不機嫌ハラスメントが横行するような場面はないか。また、職員の離職やメンタル不調が続かないように町当局が行っている対応策はなにか。当町役場は50名以上職員がいるが、中小企業のように健康管理医や産業医などの制度はどのようになっているか。産業カウンセラーは入らないのか。</p> <p>(2) 昭和61年に規定された五城目町職員安全衛生管理規定には、産業医を設置することやメンタルチェックを行うことが記載されているが、この運用はどの課が担当し、産業医は誰で、過去3年間の実績やメンタルチェックの結果はどのようになっているか。</p>
<p>6 公共交通の持続可能性をどう描くのか</p>	<p>(1) 町内デマンド交通の利用状況と一人当たりの実コストを踏まえたうえで、5年後・10年後の財政負担をどう見通しているか。高齢者の免許返納は増え続け、子育て世帯の通学・部活動の送迎問題も深刻化している。現行制度を続けるだけでは持続可能性に疑問がある。町として、朝市への移動支援、高校生の移動支援、通院支援を統合した“交通ビジョン”はどのように考えているか。</p>
<p>7 近年激増する「クマ出没」への対応は、現状のままで本当に十分なのか</p>	<p>(1) 今年の秋田県は県内各地でクマによる被害が多発し、人身被害も起きる状況となっている。五城目町でも人身被害が発生している。本年度、当町としてクマ出没に対し役場職員は何人が何回出動し何回パトロールを実施したのか。猟友会の出動回数や現場の声はどうなっているか。</p> <p>(2) 全国的に進んでいる「ジビエ活用」「駆除後の利活用」について、五城目町ではどこまで検討が進んでいるか。五城目町として、地域猟友会との協定強化、捕獲後の搬送支援、小規模処理施設の整備検討など、どこまで踏み込んだ議論が行われているのか示してほしい。</p> <p>(3) クマ対策は「個人努力」だけでは限界である。早朝の通学路見守り、監視カメラの設置、デジタル地図での危険区域共有などの“予防的施策”が町として十分に打ち出されていないのではないか。クマダスの当町での利用状況は。また、町内 LINE アカウントを活用した即時アラート、など、費用が低く導入しやすい手法も全国で広がっているが、当町ではどこまで検討されているのか。</p>

	<p>（４）クマの出没は、農作物被害だけでなく、地域の移動や観光にも大きな影響を及ぼしている。また、藪などの刈り払い、夜間照明の増設などの“物理的対策”は今年どこまで進めたのか、具体的に数値で示してほしい。</p> <p>（５）最後に、本年度のクマ対策費の執行率と、来年度に増額が必要と考えている領域を示してほしい。町民は「クマ対策は何にいくら使って、何が改善されるのか」が分からなければ安心できない。他自治体では緊急的に数百万～1000万円規模の追加予算を措置しているところもある。当町として、来年度どのような予算規模でクマ対策を進めていくのか。</p>
--	--